



ni 2016年12月15日発行
医療法人社団以心会中野胃腸病院 広報誌編集室
愛知県豊田市駒新町金山1-12
☎ 0565-57-1611
http://nakanohp.com

エヌアイだより



病院の理念

私たちは、地域に根ざした消化器専門病院として、良き伝統を重んじつつ、慈愛と英知を結集し地域医療に貢献する。

基本方針

1. 私たちは、生命の尊重と人間愛とを基本とし、専門技術、知識、心を患者さんに提供するものとする。
2. 私たちは、ひとりひとりが病院の顔であるとの意識を持って、患者さんに奉仕するものとする。
3. 私たちは、ひとりひとりが常に技術知識の研鑽、向上に励み、礼節をもって患者さんに心から満足してもらうサービスを提供するものとする。
4. 私たちは、患者さんにとって良い医療を、迅速にサービスするものとする。

患者の権利と責任

1. 適切な医療を公平に受ける権利があります。
2. 病状と経過、検査や治療の内容などについて理解しやすい言葉で説明を受ける権利があります。
3. 十分な説明と情報に基づき、自らの意志で医療内容を選択する権利があります。
4. 診療上得られた個人情報保護される権利があります。
5. 患者さんは、私たちに對し自らの健康等に関する情報を正確に伝える責任があります。

医療機器管理について

当院の医療機器管理課は、それまで看護師が行っていた医療機器の管理・運用を専門的に担当する部門として2010年に新設されました。

医療機器とは病気の診断・治療、若しくは予防に使用され、人の身体の構造や機能に影響を及ぼす機械・器具のことをいいます。医療機器と一口に言っても、麻酔器、内視鏡装置など高度に専門的な医療機器だけでなく、身近なものとしてはコンタクトレンズ・補聴器なども含まれます。



<麻酔器点検中>

当院で取り扱っている医療機器は、「医療機器管理システム」によって中央管理し、保守点検、貸出・返却などの一連の業務を円滑に実施しています。



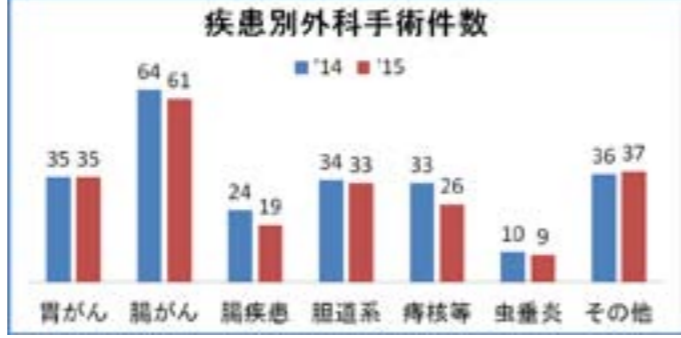
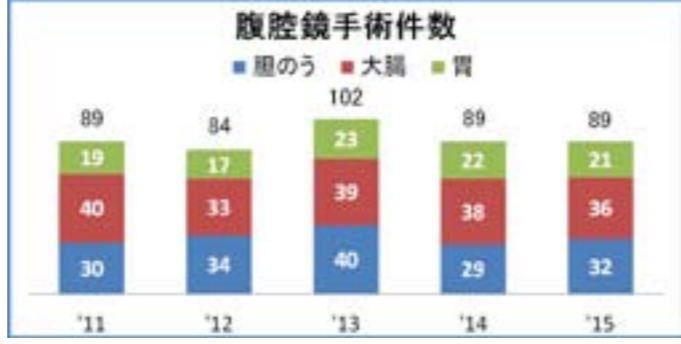
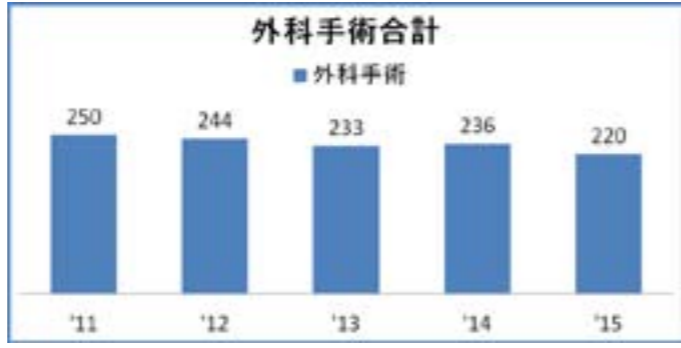
<除細動器点検中>

医療機器管理課には、現在2名の臨床工学技士がおり、機器管理だけでなく、内視鏡検査・治療への立ち会いをはじめ、血液浄化や腹水環流など、外来・病棟で患者さんと直接ふれあえる場面でも活動しています。

今後もこうした臨床業務に積極的に参加し、チーム医療の一員としてサポートしていきたいと思っています。

中野胃腸病院の実績

当院の実績のうち年度別の「内視鏡検査件数」「内視鏡手術件数」「外科手術件数」「腹腔鏡手術件数」「疾患別の外科手術件数」をお知らせいたします。



後編 編集
先日ずっと欲しかったクリスマスツリーを購入して部屋に飾りました。今年も慌ただしく過ぎていきましたが、ツリーを眺めていると心癒され、子どもの頃の懐かしい思い出がよみがえってきます。日増しに寒さが厳しくなってきました。どうぞご自愛ください。(礼)

診療時間変更のお知らせ

平成29年1月1日より、以下の通り診療時間を変更いたします。

◆火曜日午後(5:00~7:00) → 休診

	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前 9:00 ~ 12:00	○	○	○	○	○	◎	/
午後 5:00 ~ 7:00	○	/	○	/	○	/	/

◎土曜日は午前8:30~12:00

コンサートを開催しました

記念すべき第10回目のコンサートは姉妹デュオによる、フルートとピアノの二重奏をお送り



しました。ご自身で作曲された「音楽物語」は、お二人の音楽の特性で、鶴の恩返しをフューチャーした壮大な曲になっておりました。聞く人の心に繊細さと、迫力をもって届けられた感じがしました。アンコールでは、皆でクリスマスソングを合唱して、つかの間のひとときを過ごすことができたのではないのでしょうか。

次回は、また夏に楽しい企画を予定しております。

医師週間予定表

※2017年1月からの予定表です

	月	火	水	木	金	土
中野理事長	健診	外→健→外	外→健→外	外→健→外	健診	健→外→検
深尾 院長	外来	外来	検査→外来		外来→検査	外来→検査
奥嶋副院長	検査→外来	検査→外来	外来	外来	検査→外来	外来
安藤副院長	外来	外来	外来→検査	検査→外来	外来	外来→検査
横田 医師		外→検→外	外来	外来	外来	外→検→外
伊藤 医師		外来	健診	健診	健診	健診
齋藤 医師	外来	検査→外来	検査→外来	外来	検査→外来	外来→検査
前田 医師	外来→検査	外来	外来	外来→検査	外来	検査→外来
神谷 医師	外来→検査	外来→検査	検査→外来	外来	外来→検査	外来→検査
村瀬 医師	検査→外来	外来	外来	外来→検査	検査→外来	外来
舟曳 医師		外来→検査	外来			
榊原 医師				検査→外来		
堀 医師		健診				

急性虫垂炎について

医師：齋藤 慎一郎

虫垂と呼ばれる部位に炎症を起こし、お腹の右下に強い痛みが起こる病気です。時に治療として手術が必要となることもあります。今回は急性虫垂炎について解説します。

❖ 急性虫垂炎とは

大腸の一番口側にある盲腸の先についている虫垂という部位に炎症が起こった状態です。いわゆる「盲腸」としてよく知られていますが、医学的には急性虫垂炎が正式な病名です。急に激しい腹痛を訴え、外科的な治療を必要とする病気を総称して「急性腹症」といいますが、虫垂炎はそのなかでも最も頻度の高い病気です。虫垂に炎症が起こる原因は完全には分かっていませんが、便の塊やリンパ組織などにより虫垂内腔が狭くなったり、細菌による二次感染が起こり発症すると考えられています。

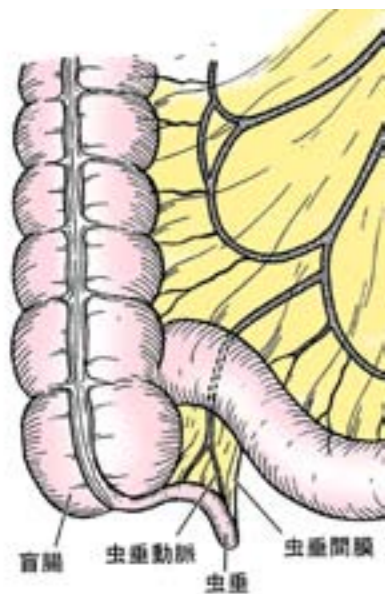


図1

虫垂炎の発症のピークは10～20代ですが、小児や高齢者も含めてどの年齢層でもみられ、男女差はありません。炎症の強さによって軽い順から(1)カタル性虫垂炎、(2)蜂窩織炎性

虫垂炎、(3)壊疽性虫垂炎の3段階に区分されています。

❖ 症状と診断

右下腹部痛、吐き気、発熱などで発症することが多く、初めにみぞおちや臍周囲が痛くなり、徐々に痛みが右下腹部に移動することがあります。しかし、このような典型的な症状を示すことは決して多くもなく、半数程度にすぎないため注意が必要です。さらに化膿が進むと虫垂に穿孔（腸に穴が開くこと）が起こり、周囲に膿が貯留する腹腔内膿瘍や、お腹の中に膿が広がる汎発性腹膜炎という状態まで進んでしまうことがあります。こうなると高熱、腹満感などの症状が現れたり、お腹を軽く触るだけでひどく痛くなったり、歩く時に痛みが響いて前かがみになったりする場合があります。このようにひどくなるまで診断がつきにくいこともあります。

診断については、腹部の触診、血液検査、腹部CT検査、腹部超音波検査などの検査が行われています。血液検査では白血球数、CRP値といった炎症の強さを、腹部CT、超音波検査などの画像検査では虫垂の腫れの程度、腹腔内膿瘍の有無などを判断し、総合的に治療の緊急性や方針などを決定していきます。同じような症状を起こして、間違えやすい病気としては、結腸憩室炎、尿路結石、腸炎、婦人科疾患などがあります。

❖ 治療

1894年に虫垂を切除する手術が報告されて以降、外科的治療は急性虫垂炎の標準治療とされてきました。現在では外科的治療として腹腔鏡下手術なども行われています。また、炎症の程度などを考慮したうえで、外科的治療を行わず抗生剤を使用する保存的治療も多く行われています。

◆ 外科的治療

・虫垂切除術

虫垂切除術の場合は右下腹部に斜めの皮膚切開（交叉切開、図2-①）、もしくは腹直筋の外縁に沿うような縦の皮膚切開（傍腹直筋切開、図2-②）を行い、虫垂を切除します。腹腔内膿瘍や汎発性腹膜炎が認められた場合は、お腹の中に

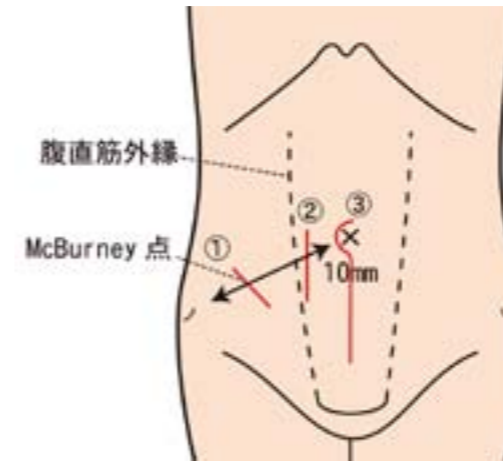


図2

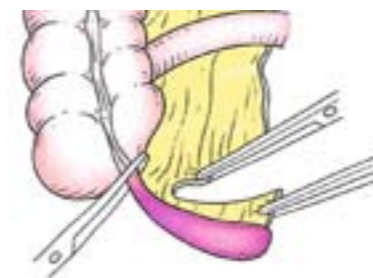


図3

シリコン製の管を術後数日間のあいだ留置し、汚染物質を体外へ排出する腹腔ドレナージ術を追加します。炎症による変化が虫垂に留まらずに盲腸まで到達している場合は、その程度によって盲腸切除術や回盲部切除術などの拡大手術が必要となる場合があります。

・腹腔鏡下虫垂切除術

腹腔鏡を用いて小さい創で手術を行う方法です。3カ所の穴をあけ、腹腔内にカメラを入れて虫垂の切除を行います。腹腔鏡下虫垂切除術のメリットとしては、開腹手術に比べて創部の感染が起こりにくく、痛みが少ないと

いわれています。また、腹腔鏡下手術でも腹腔ドレナージ術の追加や、拡大手術への変更なども可能です。腹腔鏡手術は炎症の程度によっては行えない場合もあります。

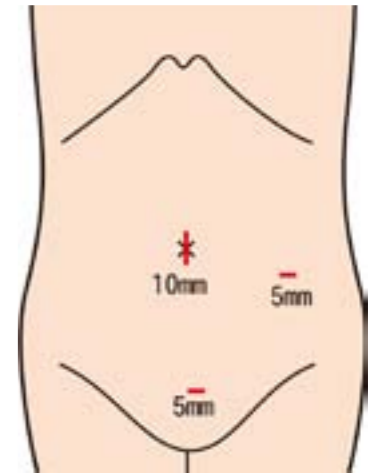


図4

◆ 保存的治療

抗生剤を使用して治療を行う方法です。よく「虫垂炎をちらす」といういい方をする治療法です。カタル性虫垂炎や一部の蜂窩織炎性虫垂炎など比較的炎症が軽いものが適応とされています。抗生剤を使用しても改善しない場合もあり、途中で外科的治療に方針を変更することもあります。また約10-30%程度で再発をするという報告もあります。最近では腹腔内膿瘍などを伴った炎症の強い虫垂炎に対しても、急性期の緊急手術による切除範囲の拡大や術後合併症をへらす意味で、まず保存的治療を行い炎症が沈静化したあとに予定手術を行う「間欠的虫垂切除術」といった考え方もあります。

❖ 最後に

急性虫垂炎は簡単な病気と思われがちですが、典型的な症状が出ないこともあり、ひどくなってからやっと診断される場合もあります。特に小児や高齢者では治療が遅れると、汎発性腹膜炎など重症化してしまうこともあります。下腹部痛や発熱などがありましたら、早期に病院を受診してください。